氏名（本籍）	鈴木　茜（神奈川県）
学位の種類	博士（音楽）
学位記番号	甲第１０号
学位授与年月日	平成２９年３月１８日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項
学位論文題目	S. カルク=エラートとそのフルート作品 ―極性和声理論の演奏への応用―

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	教授	久保田　慶一
		教授	永峰　高志
		教授	福田　隆
		教授	友利　修
		准教授	中溝　一恵
		准教授	沼口　隆
（演奏審査）	委員長	教授	久保田　慶一
		教授	永峰　高志
		教授	福田　隆
			酒井　秀明　（洗足学園音楽大学客員教授）
			岩下　智子　（武蔵野音楽大学講師、上野学園大学講師）
（論文審査）	委員長	教授	久保田　慶一
		教授	友利　修
		准教授	中溝　一恵
		准教授	沼口　隆
			小鍛冶　邦隆　（東京藝術大学音楽学部作曲科教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者　鈴木　茜（博士後期課程器楽研究領域）の学位申請論文に関して厳正に審査を行った。以下に、審査に関する所見を記す。

学位申請論文の題目は『S.カルク=エラートとそのフルート作品―極性和声理論の演奏への応用―』である。

研究演奏では、カルク=エラートの 3 曲と、彼の弟子であった S.W.ミュラーの 1 曲が演奏された。前者の作品は、フルートとピアノのための『ジンフォーニッシェ・カンツォーネ』(作品 114)、フルートとピアノのための『ゾナーテ　変ロ長調』(作品 121)、フルート、クラリネット、ホルン、ピアノのための『ユーゲント』(作品 139a)、後者の作品は『無伴奏フルートのためのゾナーテ』(作品 9a)であった。(曲名表記については訂正した)

演奏上の技術力や表現力はきわめて高く、楽曲の性格も適格に表現できており、完成度の高い、安定した演奏であった。しかし演奏解釈が理性的に熟考されたものであっただけに、表現には生硬さが感じられ、音楽に内在する―ドイツ・ロマン派の伝統に依拠したカルク=エラートが曲想記号としてよく使用した「興奮した aufgeregt」な―躍動感、多感なリズム表現、強

弱表現に、今後の研究の余地が残された。

研究論文では、音楽理論家としても知られたカルク=エラートの『和音と調性の極性理論』(1931 年)を翻訳・精読し、独自の和声理論を解題したうえで、彼の作品 5 曲(このうち 3 曲は研究演奏で演奏された)を分析し、演奏への応用を試みるという意欲的な研究であった。演奏家としての視点からの演奏解釈への提言は貴重で、今後の演奏にも大いに活用されるであろう。その一方で、当該の和声理論だけに依拠したために、一般的な和声理論への言及や当該和声理論の位置づけ、また一般的な用語との整合性が一部に欠けており、演奏実践後の考察も含めて、今後の課題として残された。

以上から、学位申請者は演奏能力、研究能力とも、博士の学位に相当するものであり、高等教育機関において教授できる能力があると判断できる。よって「博士（音楽）」Doctor of Musical Arts の学位を授与するに相応しいものと判定した。